

令和2年3月12日

八尾市議会議長

越智 妙子 様

建設産業常任委員長

重松 恵美子

建設産業常任委員会 所管事務調査報告書

本委員会は去る令和元年6月24日の委員会において、所管事務調査事項を議決した。その後、調査テーマを「八尾の将来を見据えたまちづくりについて」に決定し、調査を開始した。このたび、テーマについて委員会として取りまとめを行ったため、最終報告を行う。調査の概要については、下記のとおりである。

1 調査日

(1)建設産業常任委員会

令和元年10月28日 執行部から現状等の説明、質疑
令和2年 3月12日 報告書等の確認

(2)建設産業常任委員協議会

令和元年 6月24日 協議
令和元年 7月 3日 協議
令和元年10月28日 協議
令和元年12月 6日 協議
令和2年 1月23日 協議
令和2年 2月28日 協議

(3)視察調査

令和元年11月 5日 静岡県沼津市
令和元年11月 6日 愛知県東海市
令和2年 1月20日 国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所
令和2年 1月23日 市内視察
・流域調節池（新家調節池）
・JR久宝寺駅周辺
・JR八尾駅周辺
・近鉄河内山本駅周辺

(4)聴講

令和2年 1月23日 寝屋川流域における総合治水対策について
(大阪府都市整備部河川室)

2 調査概要

(1) 「八尾の将来を見据えたまちづくりについて」

本市において、都市計画決定・変更の指針、将来を見据えた具体的なまちづくりの方針については、八尾市都市計画マスタープランで定めている。現在、八尾市都市計画マスタープランに掲げる各事業においては、利便性、安全性、災害に強いまちづくりを主眼に計画的かつ効果的な都市基盤施設等の整備を行っている。

近年、より一層進展する少子高齢化と人口減少、耐用年数を迎える社会インフラへの懸念、昨今の異常気象による集中豪雨災害等、本市を取り巻く情勢は大きく変化し、まちづくりの課題やニーズも変化している。令和3年度には、八尾市都市計画マスタープランの全面改定を控えており、現在の社会情勢を踏まえた計画策定が必要である。

これらを踏まえ、本委員会は、現在の都市計画マスタープランの進捗状況を確認し、令和3年度の全面改定を見据え、社会インフラ整備の観点から駅周辺整備を、また、昨今の異常気象による大規模な自然災害対策の観点から総合的な治水対策及び土砂災害対策を中心に調査を行った。

調査に当たり、まず執行部から関係資料の提出と説明を聴取した。また、市内の状況を調査するため、下水道からの雨水を一時貯留する流域調節池（新家調節池）、国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所の視察を行い、説明を受けるとともに、大阪府都市整備部河川室から寝屋川流域の総合治水対策の概要について説明を受けた。また、駅周辺整備については、JR久宝寺駅を初め、市内3カ所の駅周辺の視察を行い、駅前広場や都市計画道路の進捗状況等、整備計画について確認を行った。

さらに、他市の取り組みについて調査を行うため、静岡県沼津市及び愛知県東海市の視察調査を行った。

これらを踏まえ、調査テーマについて、委員間で協議を重ねた。

3 委員会として一致した意見

(1) 「八尾の将来を見据えたまちづくりについて」

ア 長期目標、長期ビジョンを見据えた計画の策定

都市計画事業において、計画決定、事業決定、事業着手、竣工という経過を経る中で、都市計画マスタープランの計画期間である10年間では完了できないような駅周辺整備や都市計画道路等、長期的なビジョンが必要な事業も存在する。また、人口減少が進む中で、将来を見据えたまちづくりを計画的に進めていく必要がある。大阪府では、2050年を目標に、府域全体の都市空間創造に向けた大きな方向性を示す「グランドデザイン・大阪都市圏」を平成28年12月に策定し、大都市・大阪の都市空間の姿を分かりやすく示している。現在、本市は10年間を計画期間とする都市計画マスタープラン以外に、より長期にわたる目標、ビジョンを見据えた計画が策定されていない状況である。府内の自治体においても、長期目標、長期ビジョンを定めたグランドデザインを策定する動きも出てきており、本市においても、まちづくりの長期目標、長期ビジョンを定め、本市の

将来イメージを広く発信、共有し、市民とともにまちづくりを進めていく必要があると考える。令和3年度には、八尾市都市計画マスタープランの全面改定を控えているが、今後、より長期にわたる目標、ビジョンを見据えた計画の策定も検討されたい。

イ にぎわいと魅力の空間を形成する駅周辺整備

鉄道駅周辺は、地域の重要な生活拠点であるとともに、それらを支える交通ネットワーク機能を形成する交通結節点であり、魅力ある景観や利便性を有し、地域に親しまれ、シンボルとなるよう整備を進めていく必要がある。今回、視察を行ったJR久宝寺駅周辺、JR八尾駅周辺、近鉄河内山本駅周辺の整備については都市計画事業、都市計画道路事業の実施に当たり、財源の確保や土地所有者等の協力が不可欠である。引き続き、資金調達の新たな取り組みについて検討する等、財源の確保に努めるとともに、事業用地の取得においては、着実に交渉を継続されたい。また、他の市内駅前周辺においても、交通の利便性や商業機能等の充実を図る等、にぎわいと魅力のある空間を形成するためにも関係部局が密接に連携するとともに、地域の声を聞きながら、魅力ある駅周辺の環境整備を進められたい。

ウ 国道25号における課題

国道25号沿線は、平成27年全国道路・街路交通情勢調査の結果でも示されているように混雑や渋滞が発生している。国道25号沿線は、全国でも有数の中小企業が集まっているが、混雑や渋滞による時間的な制約が生じることにより、企業の生産性や効率性に影響を及ぼし、経済的な損失が生じていると考えられる。

そのため、道路ネットワーク網の構築や国道25号を補完するバイパス道路として渋滞緩和対策、防災力の向上、生産性向上に寄与する都市計画道路大阪柏原線の整備並びに八尾富田林線との接続が必要であると考え。そのため、沿線自治体と連携を図りながら早期整備に向けた取り組みを推進されたい。

エ 総合的な治水対策における市民周知の強化

本市は、寝屋川流域整備計画や下水道整備等に基づき、河川と下水道が一体となった総合的な治水対策を推進し、目標数値に対する整備も着実に進んでいる。しかし、市民はその情報を知り得る機会が少ないと考える。関係機関と連携を図り、周知啓発等の情報発信について、強化を図られたい。

オ 外水域における治水安全度の向上

東部山麓地域の外水域については、平成30年7月の西日本豪雨の際、数カ所で溢水する事態が発生している。また、恩智川の水位が上がり、流れ込む支流の水が妨げられることによるバックウォーター現象も発生している。東部山麓の河川については、治水安全度をさらに高めるため、床下げ、築堤、川幅を広げる等、河川整備等の対策を行うことを求める。

カ ため池を活用した雨水流出抑制施設の整備

本市は、河川や下水道の整備により雨水を流す対策に加え、学校の校庭を活用し雨水を一時的に貯留・浸透させ、流出量を抑える、留める対策を進めている。現在、校庭貯留は、43校中38校の整備を完了している状況である。引き続き、校庭貯留の整備を進めるとともに、本市の東部山麓に多数存在する地域資源であるため池を活用することで、雨水流出抑制の効果が期待できる、ため池を活用した治水対策も推進されたい。

キ 大和川の治水対策の促進

一級河川大和川については、長期的目標を定める河川整備基本方針に沿って、中期的な整備内容を示す河川整備計画を策定し、国直轄事業として整備を行っている。八尾市域においては戦後最大と同規模の降雨に対しても洪水氾濫が発生しない流下能力を有しているが、治水安全度をさらに高めるため、堤防の浸食対策、法尻補強等の対策について、関係市と連携し、整備を促進されるよう求める。